

練馬区の将来像を考える区民懇談会
教育分野分科会
第4回 議事概要

日時：平成19年11月20日（火）18:30～21:00

場所：練馬区役所東庁舎6階 603会議室

出席者（敬称略、50音順）

石井和政、伊藤勝、岩田幸彦、宇野俊明、奥野雅司、小野明、加藤裕、熊木和枝、
鈴木洋子、諏訪本雄次、萩原美奈子、前田明美、三澤ちづ子、南利夫、森田明、渡邊健

1. 区事務局より連絡

－事務局（区）より、配付資料の確認及び傍聴者がある旨説明があった。

2. 討議

（1）中間報告に向けた検討の進め方について

－コーディネーターの高重氏より、中間報告の内容及び検討の進め方についての説明があった。中間報告案については、12月4日を目処に委員に送付する。意見のある場合には、12月11日までに連絡し、それを受けて、事務局と発表者等で調整し、中間報告書を作成する。また、中間報告書に記載する内容のイメージについて説明があった。

○委員

・中間報告は新長期計画概要版のようなものをつくるのか。また、第一回目の懇談会で配付された「練馬区の現状と課題」があるが、ここにある課題は見直しなどを行っているのか。

○高重コーディネーター

・配付された新長期計画の概要版は行政側で作成したものであるため、今回は、区民の意見を取り入れた基本構想を作ろうということだと思ふ。先ほどの説明をしたのは全体のイメージの話であり、最終的に前回と同様のものにするのかどうかについては区の意向があると思ふ。

○事務局

・現在、区は新長期計画に基づき各種の施策を進めているが、それも踏まえて、現在、練馬区にどのような課題があるのかをまとめたものが以前配付した「練馬区の現状と課題」の資料である。

○委員

・前回の付箋をとりまとめた「将来像を実現するための現状・問題認識、課題」という資

料であるが、問題を解決するためのアプローチである課題が、これだけでは不足していると思う。

○高重コーディネーター

- ・これは前回付箋に記載されたものを文章化したものであり、事務局の考えを加えるなどして内容をふくらますといった作業はしていない。したがって、今日の議論および中間報告までの意見整理の段階で、加えていけばよいものとお考えいただきたい。

○委員

- ・「本日の進め方」にあるように、今日は第2回目の将来像や前回の問題・課題などの議論をすることになるので、その段階で、整合性をはかったり、不足を加えるなどすればよいのではないか。そのための参考資料ということでよいのではないか。

(2) 本日の進め方について

- ー家庭や地域などの連携や施設について考えるグループと、教育改革について考えるグループの2つに分け、各々のグループは、「～をめざします」という将来像を1～2つあげて、それを実現するために、どのようなことをしていけばよいのかという方向性について討議する。

(3) 討議

- ー2グループに分かれて討議を行い、その成果をグループごとに発表した。

○Aグループ

- ・教育に関する家庭・学校・地域の連携等について検討した。将来像としては『家庭・地域・学校の連携と協力体制の確立をめざします』と『区民に夢と希望と感動を与えられる施設の充実をめざします』の2つを掲げた。
- ・家庭は、教育の場であり、生活の場であり、また、社会規範やルールを守ることを学ぶ場でもある。そうしていくためには、『父親・母親が家庭教育できる環境をつくる』ことがまず大切である。そのためには、『子どもを育てることについて、親も学ぶ場を設ける』ことが必要であり、そこでの学びを通じて、『親同士のコミュニケーション』が図られていくのではないかと考えた。
- ・『練馬区ならでは教育環境づくり』を進めるということが方向性として挙げられた。これは、練馬区にある農地で農作物を作ることを通じて、食物を育て、子ども自身も育つ、学問とは違う学びの場となるのではないかと考えた。ここでは、農家との連携や、食を通じて食育を行うことなど、単なる体験することではなく、教育に幅と広がりをもたせていくというものである。
- ・さらに連携における練馬区ならではの資源の活用という視点からは、子どもの情操を育

てるための文化教育が重要であり、そのためには、武蔵野音大や日大芸術学部などの区内大学との連携などについても考えたらどうかとの意見が挙げられた。

- ・地域の連携やつながりを深めるためには、『奉仕活動・ボランティア』を行うことも必要だと考えた。
- ・また、家では子どもが一人になっている場合もあるので、そのような子どもを相互に助け合えるような仕組みが必要だと考えた。そのためには、『眠っている区民（人材、様々な立場の人）を呼び起こす』ことで、互いに助け合い、子どもの安全などを地域全体でみていく、自分の家庭や自分の子どもだけでなく、互いに助けあえる地域にしたいという意見となった。
- ・家庭はみんなが健やかに生きるための生活基盤である。『人間教育や躰など大人になるための基本的なルールを習得する場であるよう、家庭を作っていくことが必要』だと考えている。
- ・『区民に夢と希望と感動を与えられる施設の充実をめざします』については、大規模なスポーツ競技大会などが区内で開催されることは区民に感動を与えることになる。そのためには、現在のスポーツ施設を観覧席のある施設にするなど、充実させていくことが必要であるという意見であった。

○Bグループ

- ・教育の最終的な目標は、子どもを夢のある子どもに、また心の豊かな子どもにしていくことであり、楽しく、明るく、のびのびとした子ども像の先には、『自立・社会性・協調性・やさしさを身に付け、個性や多様性を受け入れ、健康でのびのびとした人づくり』があるということにまとまった。教育によってどのような子どもをつくっていくのかを突き詰めると、最終的には人づくりであるとの結論である。
- ・問題点としては、学校の運営や制度、経営の問題などの他、『教員の姿勢（使命感）』に問題があるという意見や、子どもの教育にあたっては、授業が基本であり、その授業が子どもに目を向けたものになっているのか、きちんと行われているのかを考えると、学校教育で『よくわかる、魅力的な授業』が行われているかどうかという点で問題があるのではないかとの指摘もあった。
- ・こうした問題を解決するためには、『地域全体で教育改革に取り組む』ことが必要であると考えた。そのためには、例えば、地域運営学校（コミュニティスクール）などよい影響を与えている取組もあるようなので、それらを踏まえながら、練馬区としての取組を考えていくべきだとの意見が挙げられた。

(注：グループの発表概要中『 』は、グループによってメモされたものを示す)

3. 中間報告の発表者等の選出について

ーコーディネーターの高重氏より、中間報告に向けて、本日までの検討結果を踏まえた中間報告書を作成するための流れと、発表者の選出の依頼があった。また、事務局から、本日の討議が2グループであったことを踏まえ、各々チームより最低1人ずつ選出していただきたい旨の依頼があった。

ー推薦の結果、2名の委員が選出された。また事前の調整のために17日18:30～打ち合わせを行うこととなった。

4. その他

ー第6回、7回の区民懇談会の日程調整についての依頼があった。

5. 次回予定

・中間報告会は、12月21日（金）18:30～20:30に開催する。

(以上)